

# 私の工夫

## 手術 処置 手順

### 結び目の目立たない 真皮水平マットレス連続縫合

医療法人社団みやざき外科・ヘルニアクリニック  
宮崎恭介

#### 【はじめに】

小児および成人の鼠径ヘルニア日帰り手術において、帰宅後に手術創の処置が一切不要で、かつ手術創がきれいに治ることはきわめて重要である<sup>1,2)</sup>。今回筆者は、結び目の目立たない真皮水平マットレス連続縫合を考案したので紹介する。

#### 【手術手技】

鼠径ヘルニア手術の閉創を小児では5-0、成人では4-0の彎曲針付きバイクリル糸（丸針：ジョンソン・エンド・ジョンソン）による真皮水平マットレス連続縫合で行う。針付き結紮糸での連続縫合の最終結紮は、創端で輪となった2本の糸と、その対側で真皮を貫いた糸との3本での結紮となる（図1）。

まず、輪となった2本の糸に対して、もう1本の糸をゆるく1回結節する（図2）。この結紮部を締めずに把持し、真皮を貫いた糸を引くことによって、輪となった2本の糸を締めて創を閉鎖させる（図3）。つぎに、輪となった2本の糸にゆるく結紮した手前の糸を引くことによって、真皮を貫いた糸を締めて結紮部をきつく固定させる（図4）。

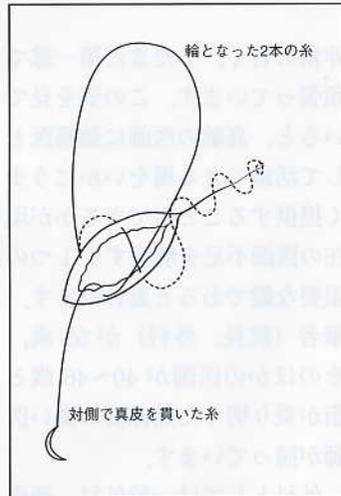


図1 手術手技①



図2 手術手技②

固定させた結紮がゆるまないように創を合わせた状態で針付き結紮糸をゆっくりと引き、結紮部を締める（図5）。図6に結紮を完了させた状態を示す。

針付き結紮糸を結節部から皮

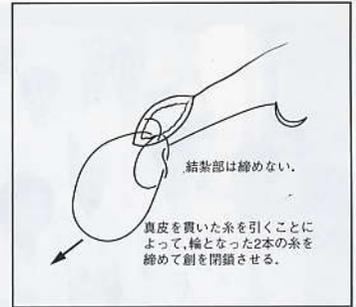


図3 手術手技③

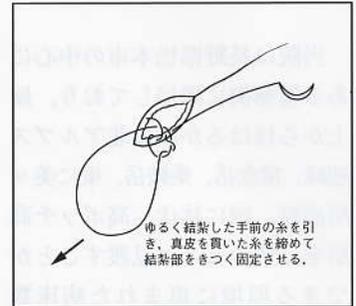


図4 手術手技④



図5 手術手技⑤

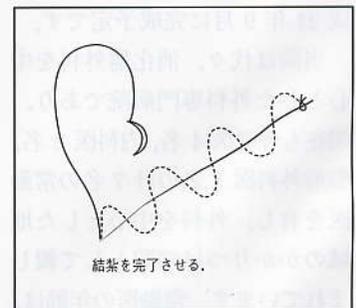


図6 手術手技⑥



図7 手術手技⑦

下を通して1 cm離れた皮膚に出す(図7)。糸を適度に牽引した状態で皮膚の直上で糸を切り、結紮部を皮下に埋没させる。最後に、ダーマボンド®(ジョンソン・エンド・ジョンソン)を創部に塗布し、手術創は開放のままとする(図8)<sup>3)</sup>。

#### 【成績】

2003年4月から2008年12月までに鼠径ヘルニア日帰り手術を2,027例(小児134例,成人1,893例)に行った。このうち、成人例において創部表層の手術部位感染を1例認め、創部の開放ドレナージで軽快した。創の培養で表皮ブドウ球菌を同定した。手術部位感染率は0.05%であった。

#### 【考察】

真皮水平マットレス連続縫合では創縁に均一な緊張がかかり、出血の少ないきれいな閉創が可能である。しかし、針付き結紮糸による連続縫合の最終結紮をどのように行うかは、あまりにも基本的な手技であるため報告が少ない。

吸収糸で真皮水平マットレス連続縫合を行う場合には、岡崎

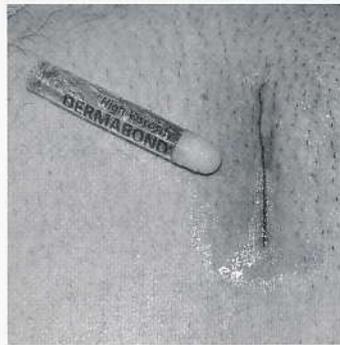


図8 手術創

ら<sup>4)</sup>が報告した手技が一般的であると思われる。この方法は、針付き結紮糸の最終結紮を創端で輪となった2本の糸とその対側で真皮を貫いた糸とを結紮し、結紮部の直上で輪となった2本の糸を切断し、残りの糸を結紮部から皮下を通して1~2 cm離れた皮膚に出し、その糸を切るという方法である。この方法の欠点は、創端での結び目が輪となった2本の糸と真皮を貫いた針付きの糸との3本での結紮となることである。つまり、この3本の糸での結紮では異物量の多い大きな結び目となり、術後数週間が経ったあとでも創端に膨隆、発赤を認め、ときとして皮下縫合糸膿瘍となることもある。

一方、筆者が考案した方法では、結節部が2本の糸で結ばれる異物量の少ない小さな結び目となり、結紮部が真皮に埋没される。それによって結び目が目立たなくなり、結果として皮下縫合糸膿瘍が起きにくい、きれいな創部となる。

手術部位感染の予防という観

点から言えば、真皮水平マットレス連続縫合で第一に選択すべき糸はモノフィラメント吸収糸であろう。しかし、今回の方法でモノフィラメント吸収糸を使用すると、糸の滑りがよすぎるために創部が縮まりすぎ、かつ結紮がゆるみやすいという欠点があった。このため、筆者は撚り糸の吸収糸であるバイクリル糸を選択した。バイクリル糸では創部が縮まりすぎることはなく、結紮がゆるむこともない。

#### 【おわりに】

この結紮方法は鼠径ヘルニア日帰り手術の創閉鎖に限らず、乳腺や甲状腺の手術創など、美容的にきれいな創痕を要求される手術ではよい方法であると思われるので紹介した。

#### 文 献

- 1) 宮崎恭介：小児鼠径ヘルニアに対する外来手術。小児外科 39：1389-1394, 2007
- 2) 宮崎恭介：独立型日帰り手術センターでの鼠径ヘルニア修復術。名川弘一(編)；「手術」別冊，最新アッペ・ヘモ・ヘルニア・下肢パリアックスの手術。改訂第2版。金原出版，2005，pp247-252
- 3) 宮崎恭介：DERMABOND\*を用いた手術創の閉鎖術。臨外 58：400, 2003
- 4) 岡崎 誠，三好秀幸：成人鼠径ヘルニア手術時の皮膚縫合。臨外 59：1330-1331, 2004

(MIYAZAKI Kyosuke 医療法人社団みやざき外科・ヘルニアクリニック：〒060-8503 北海道札幌市中央区北5条西2丁目JRタワーオフィスプラザさつぽろ7F)  
(2009年2月2日受付，2009年2月13日受理)